

〇〇〇もんずら

奥島教育長コラム No.16 2024. 7.1



引っ越しのなぞ・・・

ジュルッジュルッジュジュ ピピピ グルルルッ ギーギー チュチュッチュチュッ・・・

役場前の大川の水辺はにぎやかである。目をこらすが草に隠れて見えない。スイーツと川面を切っ
て飛んでいるのは？尾でちょんちょん水面を打っているのはセキレイか。4羽一緒にいる少し大きめ
の鳥は・・・カルガモだ！もしかしたら、カルガモ親子に会えるかもと期待して観察を始めたのは4
月下旬。5月、カルガモ親子が新聞をにぎわしたが、大川は変化なし。6月田植えが終わった田んぼ
に時々カルガモ。圓流寺の池にカルガモの親と雛5羽がいたが、もういないとか。あきらめかけてい
た6月10日、ついについに大川でカルガモの親子と遭遇！！5羽の子ガモたちが親と一緒に泳いで
大きな岩と岩の間にある草むらにかくれて見えなくなった。後ろ姿しか見えなかった。シャッターチ
ャンス間に合わず。どこから引っ越してきたようだ。カル
ガモはなぜ引っ越しをするのだろう。



かつて、カルガモの引っ越しがブームになったことがあつた。こんな話である。

皇居前のあるビルの人工池で毎年のようにカルガモが雛をかえす。皇居のお堀があるのに、なぜ人工池なのか。お堀には、カルガモの天敵がいるからだ。だから、人工池で孵化させ、そこで歩くこと泳ぐことを丹念にしつける。しかし、あ

る時期になると、このカルガモ一家は引っ越しをする。そうお堀へである。皇居前のものすごい交通量の道路を横断するのである。この時間帯は大丈夫というのがわかっているらしく、朝の交通量の比較的少ない時間帯を選んで引っ越しが始まるのだ。もちろん、ドライバー達は協力を惜しまない。

でも、なぜ天敵のいる危険な場所へ？人工池では飛ぶ練習ができない。お堀に移ったカルガモの子ども達は飛ぶ練習を繰り返しやがて旅立っていくが、ここでは親は天敵から一切守らない。子供たちは自分で自分を守るしかない。その試練を経ての旅立ち。カルガモの子供たちの力に違いがあり、やはり末っ子は遅れる。旅立ちの日、末っ子についてはいけなかった。親兄弟は構わず行ってしまった。2日後ようやく飛び立った末っ子を、どこで見ていたのだろうか。親兄弟が途中で迎え、一緒にどこかへ旅立って行った。

【1997. 5月 跡見学園女子大学教授 西村文男氏の講演より】

大川の水辺のにぎやかさは続いている。カルガモたちが大川で仲良く泳いでいるのを見たのは6月半ば、全部で8羽。この頃見かけない。どこかへ旅立ったのだろうか。